

企画事業 「環境教育に関する事業」

事業名	『サンゴの海に学ぶ』環境教育セミナー さんごわんだあーわーど	
実施期	平成22年6月26日(土) ~ 27日(日)	
担当者	企画指導専門職 仲地 雄太	

I 事業の趣旨

サンゴの海を通して、青少年に人間と環境の関わりを考える機会を提供し、持続可能な社会実現に積極的に関わられるよう環境保全意識の向上を図るとともに、自ら主体的に取り組む機運などを醸成する。

また、スノーケリングでの産卵時期のサンゴの観察を通して、サンゴが営む不思議な世界を体感し、豊かな生命を育てているサンゴ礁の海についての理解を深める。

II 事業の概要

1 事業の目的

環境教育として2回シリーズ「さんごわんだあーわーど」、「サンゴ礁ウォッチング」を企画している。本事業は環境教育の動機付けのプログラムとして夜の海を観察し神秘さに触れ、自然の豊かさを感じる。

また、慶良間海域にて環境保全活動や生活をする方々の講話を聞くことにより、その自然がどのようにして守られ、生活の中に関わっているのかを知る機会として事業を企画した。

コンセプトとしては「満月の夜にサンゴの産卵が行われる。その神秘的な様子を観察し、自然の中の営みを体感するとともにその生態について知る機会とし、その環境を育む海そのものについて関心を高めさせたい。」とした。

2 参加対象及び募集人員

高校生～おおむね30歳
おおむね20名程度

3 参加状況

男性6名、女性14名 計20名
高校生(県内)・・・5人
大学生(県内)・・・7人
社会人(県内)・・・8人

4 実施上の留意事項

今回の事業は「ナイトスノーケリング」をプログラムに入れているが、スタッフの経験が少なく、

また、参加者には夜の海に対して恐怖心を抱く方もいることから、さまざまなトラブルを想定しての、安全対策を考慮した。

(1) 想定されるリスク

- ①体調不良による溺水、心臓発作等
- ②研修場及び海上での危険生物の咬傷、刺傷や危険箇所での怪我
- ③スノーケリング技術の未熟による溺水、パニック症状
- ④気象状況の急変による事故(雷、潮流の変化等)
- ⑤乗船移動に伴う船上の事故、怪我等
- ⑥夜間スノーケリングにおける人員把握体制の不備による事故

(2) 安全対策

- ①朝夕、海での活動前後等に健康観察を行い、参加者の健康の維持管理を図る。
- ②事前にフィールドチェックを行い、海洋研修場や観察ポイントの危険箇所の状況を的確に把握する。
- ③参加者のスノーケリング技術に関する実態把握をして、スキル別のグループ分けを行いレベルに応じた指導を行う。スノーケリング実施時には、海上監視スタッフの増員及び看護師を配置する。
- ④事業期間中は、観察ポイントの状況やインターネット、携帯により気象情報の収集に努め利用海域の状況を的確に把握する。
- ⑤夜間のスノーケリングにおいては、安全監視体制として観察エリアに船舶の配置、カヤックにてより接近した安全監視、同行しての水中監視及び、陸上監視を配置。
活動範囲をフラッシュライトで明確にし、参加者はスノーケルにケミボタルを装着し、ライトを持って入水する。
- ⑥ナイトスノーケリング中は15分おきに船上より人数・安全確認をし、その結果を海上の進行スタッフと陸上の本部に連絡する
- ⑦搬送用車両、担架等を海上より、できるだけ近い場所に配置する。

5 活動のようす

1日目 初日はふれあいレクリエーションで楽しい時間を過ごし、これからの活動に向けての導入を行う。その後スノーケリング基礎で基礎トレーニング及びキルチェックを行う。

夜にはメインのナイトスノーケリングを実施した。



《ふれあいレクリエーション》



《スノーケリング基礎でのバディーチェック》



《スノーケリング基礎 指導を熱心に聴く》



《エントリー前の器材のチェック》



《さあ、夜の海へ》



《安全確認のライトが幻想的》

2日目 渡嘉敷島から隣の阿嘉島臨海研究所へ船で渡りサンゴの保全活動の最先端に触れた。午後には地元渡嘉敷に海とのかかわりの中で生きてきた方の講話を聞く。



《いざ、阿嘉島へ》



《クサビライシの生態観察》



《サンゴの幼生プラヌラ》



《研究所の岩尾さんの講義》

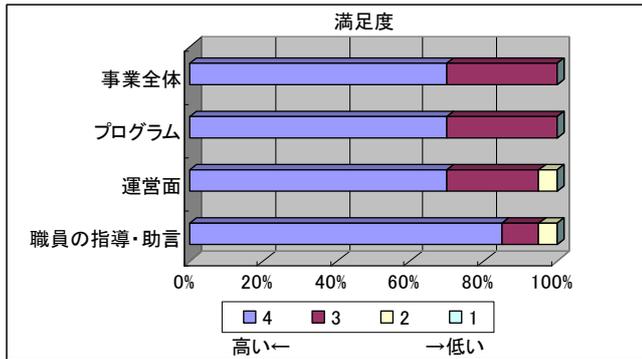


《金城さんの講話「渡嘉敷の海に生きる」》



《記念撮影》

6 アンケート結果



《良かった点》

- 良い貴重な経験になった。先生方が丁寧に教えて下さり、またたくさんの人との出会いがありとても素敵な経験だった。
- (運営側の苦勞を考えずに言うと) 定員を30~40名に増やしても良いのかなと思う。これだけの内容を20名程度で体験するのはもったいないくらいの満足感だった。ただ、それはスタッフがあれだけ参加してくれたからだと思う。
- 本島に住んでいるときはあまり考えなかったが、渡嘉敷島に住み、このセミナーに参加したことで「台所が直接海につながっている」ということを強く意識するようになったと同時に将来にずっと残したいと思った。
- 楽しめて、さんごの勉強もできてとても良かった。オープンカヤックやスノーケルも楽しく、講義も海を見た後だったので興味をもって聞くことができた。
- たまたま海ガメを見られたことが一番印象的。こんな大自然の素晴らしさをこれからも守っていかなければいけないと思ったし、自分たちもこの素晴らしさをいろんな人に伝えていかなければと思う。
- スノーケリング講師の秋山さんの話に全部感動した。講義もその前に実際海に入って生物を見たことで意欲が増し、楽しく聞けた。全体を通し沖縄
- サンゴについて観光の対象としてだけでなく、保全保護に視点から考えてみることで良かった。

《改善すべき点》

- 目的にしていたサンゴの産卵が見られなかったのが、残念であった。
- スノーケルのグループはもう少し細分化した方がよいと思う(20名で2グループだったが4グループくらい)。
- 持ち物や次の行動についての連絡が少なかった。時々説明不足だなと思う点があった。
- バディとはぐれないようにと何度も言われたが、全員が同じペンライトの色では分かりづらいので色を変えるなど、夜の海での配慮をもう少し検討したらなお良い研修になると思う。

- 内容が盛りだくさんでとても充実していたが、その反面参加者同士の交流があまりなかったように思う。自由時間を1~3時間くらい設けて欲しかったかなと思う。

III 成果と課題

1 事業の成果

本事業は目的として環境保護への意識付け、動機付けとしていたが、参加者のアンケート等からも所期の目的は達成できたと思う。特に今回は環境教育に対する動機付けとしてインパクトのあるものということで「ナイトスノーケリング」を取り入れた。参加者がパニックを起こしたらどのように対応するか、夜間のため水上バイクが使えない、参加者の安全確認ができるかなど、これまでにない対応が必要だった。しかしその対応をスタッフ間で話し合う中でクリアすることができ、今までと違う安全監視体制の視点に気づく事ができたりした。

近隣の島に船で渡りサンゴの専門家の方が実際の施設・設備を見ながらの解説、職員の「思い」を聞くことによって参加者の意識を高めることに効果があった。

また、講話として地元民宿を経営する方で渡嘉敷の自然(海)の中で生まれ、育ち、仕事をしてきた方の話を聞き、渡嘉敷島の海に対する地元の方々の「思い」に触れることができた。

2 今後の課題

今回の事業の定員は20名とした。これはナイトスノーケリングの安全監視体制を考えての定員とした。申込み、問い合わせがあったがお断りをした経緯がある。次回からは今年度の経験を踏まえ参加定員を広げることも検討したい。

また、事業の実施に際しては大型フェリーでの往復が通常であるが、一泊二日の短期間のため高速艇を利用した。今後ともこのパターンでの実施を継続を行いたい。

IV おわりに

近年の本事業を振り返ると参加者の応募が少ない傾向にあったが、今回からナイトスノーケリングを取り入れたことにより応募者が多く定員を超えることができた。「サンゴの産卵」「夜間のスノーケリング」という普段では体験できないことをプログラムにすることで参加意欲を高めることができた。結果として海の神秘さを知り、それを守っていくような思いを抱かせることができた。

今後、参加者が自然保護の意識を持ち生活の中でも行動し、身近なところからの啓蒙をしてもらうことを期待する。